

東京国立 博物館 ニュース

第689号
展示と催し物
案内

2-3 ● 特集陳列 平成19年度新収品

4-5 ● 特別展「対決——巨匠たちの日本美術」

5 ● 特別展「スリランカ——輝く島の美に出会う」

6 ● 特別展「フランスが夢見た日本——陶器に写した北斎、広重」

7-10 ● 平常展見どころ案内2008年6月・7月

重文 青磁茶碗 銘馬蝗絆／特集陳列「古写真——古美術の記録——」／
特集陳列「朝鮮染織・装身具」／国宝 華嚴宗祖師絵伝／重文 大日如来坐像

11 ● 東京国立博物館コレクションの紹介 第2回

「塩野コレクション」

12-13 ● 教育普及事業 14 ● INFORMATION 15 ● TOPICS

16 ● 2008年6月・7月の展示・催し物

2008

67

月号

特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」
7月10日(木)～9月21日(日) 本館11室



特集陳列

平成19年度新収品

6月17日(火)～7月13日(日) 本館特別1・2室

平成19年度はご寄贈や購入など全部で850件の作品が新たに当館の所蔵となりました。毎年恒例の新収品展、本号ではその中から6件をご紹介します。

天神の崇りにあつた仁和寺の高僧 北野天神縁起絵巻 (建治本)断簡

北野天神縁起絵巻(建治本)断簡 鎌倉時代・建治3年(1277)
「建治本」は同じ系統の「弘安本」(北野天満宮蔵他)より古く、
とくにこの段の絵は「弘安本」ではすでに失われてしまっていて貴重です。

仁和寺のえらい坊さんが、西ノ京にある北野天神の御旅所(祭礼の際、神輿が仮に鎮座するところ)の前を牛車に乗ったまま通り過ぎようとしたところ、牛が突然倒れて死んでしまいました。恐れおののいた坊さんはあわてて寺に帰りますが、それ以後病にとりつかれてしまいます。天神に不敬な態度をとった報いでした。絵はまさに牛が悶絶死する場面で、御旅所を鳥居の下部のみで表したのは絵師の機知です。

菅原道真(八四五～九〇三)の生涯と、没後の怨霊の祟り、北野社(現在の京都・北野天満宮)の創建とその霊験(生を絵画化した北野天神縁起絵巻(三巻・三十三段)のうち一段分の断簡です。もと一セットの零巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の奥書により、建治三年に白描画として描かれ、八十三年後の延文五年(一二六〇)に彩色されたものであることがわかります。(松原茂)

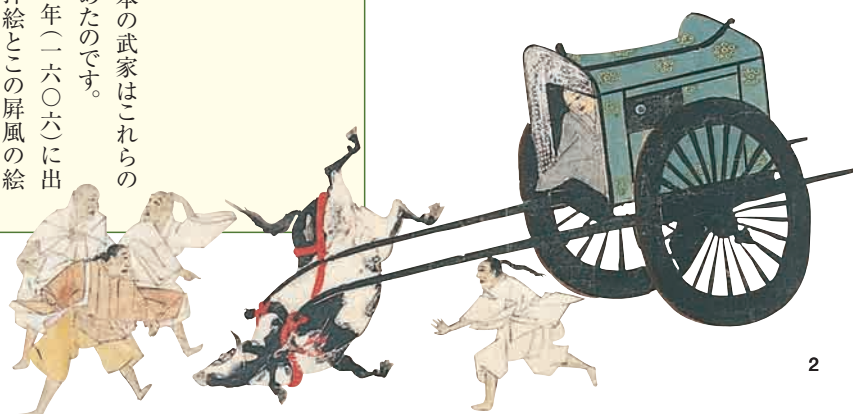
帝鑑図屏風 狩野山楽筆

指導者次第で国は滅ぶ

帝鑑図は、中国皇帝たちのエピソードを絵画化したものです。天下を治めるものが善を勧め、悪を戒めるために描かれました。この屏風には善悪それぞれ六つのエピソードが取り上げられています。ここにあげた「脯林酒池」は夏の暴君桀王が寵愛する妹喜に従い、酒の池に船を浮かべ、脯(肉)を林のように立てて、贅を尽くした宴を催した情景で、国を傾ける愚行として描かれています。日本の武家はこれらの絵画によって自らを戒めたのです。

豊臣秀頼が慶長十一年(一六〇六)に出版した『帝鑑図説』の挿絵とこの屏風の絵は密接な関係をもっています。作者山楽は豊臣家に仕えた画家でもあり、この作品が豊臣家の意向によって描かれたものと考えられることができます。(松嶋雅人)

帝鑑図屏風(部分) 狩野山楽筆 江戸時代・17世紀



古人の筆跡による競演

古筆手鑑「毫戦」

筆跡を意味する「手」と、模範・手本の意味をもつ「鑑」の語からなる「手鑑」は、その名のとおりの書の模範となる古人の筆跡を集めたアルバムで、安土桃山時代に発生し江戸時代に多く作られました。「古賢」の筆意を熟覧し、「精霊」宿るところを得心することが書道上達に不可欠との論は『入木抄』にすでに見られ、名筆に内在する心を学ぶことも手鑑には期待されたのでしょう。表面に九十七枚、裏面に百十枚の断簡を収め、多くの名物切を含みます。表紙は龍をあしらった明時代の裂、裏面の表紙の裂は牡丹模様で江戸初期頃のものと推定され、ともに見事です。珠玉の

内容、入念の詠え、加えて保存状態の良さが揃った、当館の古筆手鑑中屈指の優品に位置づけられます。
(丸山猶計)

古筆手鑑「毫戦」奈良・江戸時代
名称は、帙の題箋「毫戦（こうせん）」による。
巻頭を飾るのは、五行の「賢愚経断簡（大聖武）」



伝茨城県行方市沖洲

大日塚古墳出土品



→ 衝角付青 ↑ 鹿角装刀子
伝茨城県行方市沖洲
大日塚古墳出土
古墳時代・6世紀
貴重な完形の青と
柄に施された線刻文様の
美しい刀子



大日塚古墳は、茨城県の霞ヶ浦東岸に所在する古墳時代後期（6世紀）の墳丘長約四十メートルの前方後円墳であり、当館所蔵の埴輪猿（重要文化財）を出土したといわれていることで特に著名です。今回ご紹介するのは、大日塚古墳から出土したと伝えられる副葬品の一括で、完形の衝角付青、挂甲、鹿角装刀子、鉄鏃、金銅装や鉄製の馬具が含まれています。特に鹿角装刀子の柄部分には鱗状文と、直弧文と呼ばれる直線・弧線を組み合わせた文様が刻まれており、優美な仕上がりになっています。後期古墳の副葬品がまとまって判明することは稀であり貴重な資料です。これらの作品の購入に当たっては、賛助会員の皆様の御協力を賜りました。（日高慎）

日本の鐔を代表する名作

重文 雨下猛虎図鐔

奈良利寿作

上方に雲に雨、下方に荒れ狂う波を鋤出高肉彫と毛彫で表し、洞窟を透彫にして、その前に、岩上に座る虎を配しています。虎の斑や水玉には金の象嵌を施しています。利寿（一六六七～一七三六）は、江戸でもっとも古い町彫系の装剣金工である奈良派屈指の名工として、杉浦乗意、土屋安親とともに奈良三作といわれ、高い評価を得ていました。乗意は肉合彫による微妙な高低差の文様表現、安親は巧みな構図と詩情のある作風、そして利寿は文様を肉厚に彫った豪快な表現に特徴を見せています。利寿の鐔は少なく四点ほどが

◎雨下猛虎図鐔
奈良利寿作
江戸時代・
17～18世紀



知られるに過ぎませんが、この鐔は波や虎が迫力に満ちていて、その代表作にあげられます。
(原田一敏)

なお生き続ける古代エジプト文明の伝統
パディ・イン・ヘルの
ミイラの包み布

パディ・イン・ヘルという名の死者のミイラを包んでいた亜麻布です。祠堂の中に、死者の神オシリスの姿をした死者の姿が彩色で描かれています。祠堂には聖刻文字の銘

文が記され、死者の周りには死後の世界に關係する図像が描かれています。古代エジプトでは、来世での復活を願って、死者はミイラに加工して保存されました。死者の身分や地位、時代によって、ミイラは石や木などで作られた棺に入れて、墓に納められましたが、王朝時代も末期になると、ミイラを布に包んで埋葬する風習が一般的になります。この作品はすでにエジプトがローマ皇帝領となった時代のものですが、なお生き続ける古代エジプト文明の伝統を示しています。（後藤健）



パディ・イン・ヘルのミイラの包み布
エジプト出土 ローマ帝政期・1世紀

対決

創刊記念「國華」一二〇周年・
朝日新聞一二〇周年 特別展
DUELING GENIUSES: THE GREATEST
HIGHLIGHTS OF JAPANESE ARTISTS

巨匠たちの日本美術

運慶 VS 快慶 雪舟 VS 雪村
永徳 VS 等伯 長次郎 VS 光悦
宗達 VS 光琳 仁清 VS 乾山
円空 VS 木喰 大雅 VS 蕪村
若冲 VS 蕭白 応挙 VS 芦雪
歌麿 VS 写楽 鉄斎 VS 大観

大雅 VS 蕪村



●十便帖のうち釣便図 池大雅筆 江戸時代・明和8年(1771)
神奈川・川端康成記念会蔵



●十宜帖のうち宜晩図 与謝蕪村筆 江戸時代・明和8年(1771)
神奈川・川端康成記念会蔵

現役世界最古の美術研究誌として海外にもその名を轟かす『國華』という名称は、岡倉天心の創刊の辞「美術ハ國ノ精華ナリ」から採られました。最新号は一三五一号を数えます。この間『國華』は、日本および東洋の優れた美術についての、質の高い論文を掲載するとともに、埋もれていた名品を数多く世に紹介してきました。創刊一二〇年を記念して開催する本展は、『國華』誌上を飾った名品・優品を中心に、中世から近代にいたる日本美術を、巨匠たちの「対決」という斬新かつ大胆な視点でとらえようとするものです。

「対決」は二人一組で上記のように一二組、二四人の巨匠・名匠を取り上げました。そのなかの一組、日本の文人画を大成したといわれる池大雅(一七三三〜七六)と与謝蕪村(一七一六〜八三)が残した「十便十宜帖(国宝、神奈川・川端康成記念館蔵)は、この展覧会を象徴する作品といつてもいかもしれません。

明和八年(一七七二)、尾張国(愛知県)鳴海の素封家であった下郷学海の依頼によって、当時四七歳の大雅と五六歳の蕪村が各一〇図ずつを競作しました。同じ条件の下に描かれた両帖を見くらべると、変化に富んだ線を一本一本ゆくりと引いて構成した大雅の

明るくおおらかな画面と、季節や時刻あるいは気象に敏感な蕪村の叙情的な画面とはまさに対照的に見えます。書を書くことで筆技を研いた大雅と、鋭い感性を俳諧で培った蕪村の絵の特性がはつきりと見えてくる。つまり、くらべることによって、二人の巨匠の特性や本質がより鮮明に浮き上がってくるというわけです。

このほか、同門ながら異なった新時代の作風を開拓した運慶と快慶、障壁画の受注をめぐって実際に争った狩野永徳と長谷川等伯、強烈な個性で鬼才を放つ伊藤若冲と曾我蕭白、美人画と役者絵の大首絵で勝負した喜多川歌麿と東洲斎写楽などは、同時代に人気を競った文字通りの「対決」といえるでしょう。

この展覧会では、野々村仁清と尾形乾山や円山応挙と長沢芦雪のような師匠と弟子の関係、さらに、雪舟等楊と雪村周継あるいは、俵屋宗達と尾形光琳のように一方が一方に私淑するという関係も、先達を尊敬し学びつもそれを超えようとする意識をもったと考え、あえて「対決」ととらえることにしました。

各組の二人の関係性に留意しながら、くらべることによって見えてくる巨匠たちの優れた個性にご注目ください。

(松原茂)

関連事業

特別展「対決―巨匠たちの日本美術」を記念して、記念座談会と記念講演会を開催します。

記念座談会「放談 巨匠対決(仮)」

出演・河野元昭氏(「國華」主幹、尚美学園大学教授、秋田県立近代美術館館長)・水尾比呂志氏(「國華」名誉顧問、武蔵野美術大学名誉教授)・小林忠氏(「國華」編集委員、学習院大学教授、千葉市美術館館長)、松原茂(当館上席研究員)

日時・7月19日(土) 13時30分〜15時

(開場13時)

会場・平成館大講堂(定員380名)

無料・ただし「対決」展観覧券(半券でも可)が必要

締め切り・7月1日(火)必着

記念講演会「美と個性の対決」

講師・辻惟雄氏(「國華」名誉主幹、美術史家、MIHOMUSEUM館長)
日時・8月2日(土) 13時30分〜15時
(開場13時)

無料・ただし「対決」展観覧券(半券でも可)が必要

締め切り・7月15日(火)必着

申し込み方法・往復はがきの「往信用裏面に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講希望する座談会または講演会名を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

〒103-0014 東京都中央区

日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル

(ウイング内)「対決展」広報事務局

座談会・講演会(1)7月19日または

(2)8月2日「係

特別展

スリランカ

輝く島の美に出会う

インド洋に浮かぶ宝石にたとえられたスリランカは、その国名が意味する「光り輝く島」の言葉の通り、輝かしい歴史を育んできました。本展は、わが国で初めてスリランカ美術を本格的に紹介するものです。スリランカは、上座部仏教の国としてよく知られていますが、長い歴史の中には大乘仏教も信仰され、また、ヒンドゥー教も人々の生活の中に浸透しています。

本展では、スリランカ第一の古都として栄えたアヌラダプラ(前3世紀～11世紀初)、それに続くポロンナルワ(11～13世紀)、そして16世紀以後の中心地となったキャンディにおいて、当時の人々の信仰を集めた仏教、ヒンドゥー教像をはじめ、キャンディ時代の象牙細工、金・銀・宝石をふんだんにあしらった華麗な宝飾品などを中心に、約150点の作品を展示し、スリランカの歴史と文化をご紹介します。(小泉恵英)

特別展

「スリランカ——輝く島の美に出会う」

2008年9月17日(水)～11月30日(日)
東京国立博物館表慶館

主催：東京国立博物館、読売新聞社、
スリランカ民主社会主義共和国文化省

後援：外務省

助成：国際交流基金

お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

観音菩薩坐像 銅造鍍金 後期アヌラダプラ時代・
8～9世紀 コロンボ国立博物館蔵



◎色絵吉野山図茶壺 野々村仁清作
江戸時代・17世紀 福岡市美術館蔵
(松永コレクション)
山崎信一氏撮影



色絵紅葉図透彫反鉢 尾形乾山作
江戸時代・18世紀 個人蔵

仁清 VS 乾山



◎繪図屏風 狩野永徳筆 8曲1隻 安土桃山時代・16世紀



◎松林図屏風 長谷川等伯筆 6曲1双のうち右隻 安土桃山時代・16世紀(7月27日まで展示)

永徳

VS

等伯

創刊記念『國華』120周年・朝日新聞130周年 特別展

「対決——巨匠たちの日本美術」

7月8日(火)～8月17日(日) 東京国立博物館 平成館特別展示室第1～4室

主催：東京国立博物館、國華社、朝日新聞社 後援：文化庁 特別協賛：DIAMアセットマネジメント 協賛：三井物産、トヨタ自動車、大日本印刷 協力：東京美術倶楽部、日本航空
観覧料：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/800円)、高校生900円(700円/500円)

※中学生以下は無料、年齢のわかるものをご提示ください。()内は前売り/20名以上の団体料金。
障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

展覧会公式サイト：<http://www.asahi.com/kokka/>

※期間中展示替えがあります。

1枚の往復はがきで1つの座談会または講演会につき最大2人の応募可。2人の場合にはそれぞれの氏名を必ず明記のこと。
応募多数の場合は抽選の上受講券をお送りします。

日仏交流150周年記念
オルセー美術館コレクション特別展

フランスが夢見た日本 — 陶器に写した北斎、広重

江戸の浮世絵がヨーロッパの ジャポニスムの絵画や工芸 品に大きな影響を与えたことは よく知られています。今回の展 覧会は、ブラックモンとランペール という二人の作家がデザインし、 ウジエヌ・ルソーの経営する陶 器工場で生み出された絵皿と、 元絵に使われた浮世絵などの日 本の版画や版本との関係がみつ ころです。

ブラックモンといえば、『北斎漫
画』の価値をもっと早く見出し
た銅版画家として知られていま
すが、彼が一八六六年にデザイ
ンした絵皿にはこの絵手本と広
重の錦絵「魚づかし」が用いら
れていることが早くから指摘され
ています。『北斎漫画』の他にブラッ
クモンが元絵に多用したのが、北
斎門人の二代葛飾戴斗（生没年
不詳）が描いた嘉永元年（一八四
八）刊の絵手本『花鳥画伝』初編
です。彼はこうした浮世絵の花
鳥版画や絵手本のモチーフを切
り取り、器の表面を自在にデザ
インしています。

セーブル国営製陶場専属の装
飾画家アンリ・ランペール（一八三
六〜一九〇九）がルソーのために
絵付けした絵皿が世に出たのは
一八七三年といわれていますが、
後述する元絵に用いた日本の画
譜の刊行年代からみて、少なく

とも一八八〇年代初頭までは続
いていたようです。

ランペールの絵付けした絵皿の図
柄は、「地」の部分で埋めた絵
画性が強いことが特色です。花
鳥だけではなく、風景的な主
題も少なくありません。彼が風
景的な図柄の元絵に用いたの
は、浮世絵におけるこの分野の
名手である歌川広重の「五十三
次名所図会」や、広重と三代豊
国の合作「双筆五十三次」、国芳
の「高祖御一代略図 佐州塚原
雪中」などで、いずれも絵皿の丸
い形にうまくまとまるようにト
リミングしています。花鳥画的主
題では、明治十四年（一八八
一）に刊行された幸野樸嶺（一八
四四〜九五）の『模嶺百鳥画譜』、
河鍋曉斎（一八三三〜八九）の
『曉斎楽画』がよく使われていま
す。いずれも明治を代表する花
鳥画譜ですが、ここでもトリミン
グの妙が目をひきます。

江戸末・明治の錦絵や版本の
図柄が、たくみなトリミングとア
レンジによって、東洋趣味を残し
ながらも瀟洒な食器に生まれ変
わっているのには
見事というほか
ありません。
（本展ゲスト・キュ
レーター 国立歴史
民俗博物館教授
大久保純一）



↑五十三次名所図会・沼津
歌川広重筆 江戸時代・安政2年
（1855） 広重最晩年の東海道
シリーズで、通称「豎絵東海道」



↑↓ランペールの絵付けによる
平皿（雪景山水）と部分

→河鍋曉斎「曉斎楽画」
より「詔と雄鶏」 明治
14年（1881） 千葉市
美術館蔵 『曉斎楽画』
は曉斎の画譜の代表
作。動物たちの躍動感
ある描写が印象的



→ランペールの絵付け
による平皿（詔と雄鶏）と部分



←ブラックモンの銅版画
による平皿（菊に雀）と部分



→二代葛飾戴斗「花鳥画伝」
初編「菊華雀」 江戸時代・
嘉永元年（1848） 個人蔵
二代戴斗の代表作だが、師
の『北斎漫画』と画風のみな
らず図柄も酷似する



オルセー展関連事業

特別展「フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重」に関連して、記念シンポジウムを開催します。

記念シンポジウム「フランスのジャポニスム— 陶磁器を中心に」

「フランスが夢見た日本」の展示作品の背景にある
“ジャポニスム”をめぐる、4名の研究者がそれぞれの
立場から解説します。

主催：東京国立博物館・ジャポニスム学会・日本経済
新聞社

講師：三浦篤氏（東京大学）、大久保純一氏（国立歴史
民俗博物館）、今井祐子氏（福井大学）、土田ルリ
子氏（サントリー美術館）

日時：7月12日（土）13:30〜17:00（開場13:00）

会場：平成館大講堂 定員：各380名

無料（ただし「フランスが夢見た日本」観覧券（半券で
も可）が必要）

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に受講希望
者（2名まで）の郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電
話番号を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住
所・氏名を明記の上、〒100-0004 東京都千代田区
大手町2-3-6 三菱総合研究所ビル 日本経済新聞社
文化・事業局 文化事業部「フランスが夢見た日本」記
念シンポジウム係へお申し込みください。

※1枚のはがきにて2名様まで申込可とさせていただきます。
2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記のこと。

申込締切：6月25日（水）必着

日仏交流150周年記念 オルセー美術館コレクション特別展

「フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重」

7月1日（火）〜8月3日（日） 東京国立博物館 表慶館

主催：東京国立博物館、オルセー美術館、日本経済新聞社

後援：フランス大使館

協賛：東レ、松下電器

協力：日本航空

観覧料：一般1,000円（800円／700円）大学生・高校生700円
（500円／400円）

※中学生以下は無料。（ ）内は前売り／20名以上の団体料金。障害者とその介護者
1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）



◎青磁茶碗 銘 馬蝗絆 中国 南宋時代・13世紀 三井高大氏寄贈 裾に打たれた鏝には、伝来した長い時間とともにどこか愛嬌も感じます

平常展見どころ案内 2008年6月・7月

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

中国に対する深い憧憬の証

重文 青磁茶碗 銘馬蝗絆

5月20日(火)～9月21日(日) 東洋館第5室 中国陶磁

一度耳にしたら忘れがたい名前と、姿の美しさによって、東京国立博物館東洋陶磁コレクションのなかで一、二を争うほど人気のある作品です。南宋時代の龍泉窯を代表する茶碗で、その釉薬は吸い込まれそうなほど美しく、まるで玉のようです。

中国青磁の主要窯である龍泉窯は、現在の浙江省南西部、緑深い山々が連なる地域に広がっています。山の斜面を切り開き、最盛期の南宋から元時代にかけて三百基を超える窯が生産を行なったといわれています。

特に南宋時代には、官窯にも劣らない粉青色の美しい青磁が作られました。当時の人々の青磁に対する強い憧れが、龍泉窯の盛業につながったのです。この時期の龍泉窯青磁は日本にも多く運ばれ、この作品のように優れて美しいものは「砧」と呼ばれて賞玩されました。

「馬蝗絆」の名前の由来は、裾部分に打たれた鏝にあります。室町時代に將軍家所蔵となった折、底が割れてしまったので、八代將軍義政が明に同じものを送るよう求めました。し

かし、美しい釉薬の青磁を作る技は既に失われ、碗は割れた部分を鏝で接いだだけで戻されました。その鏝の様子が大きな蝗が止まっているかのようにであったため、「馬蝗絆」と名づけられたのです。

この由来は、江戸時代の儒学者伊藤東涯が書いた「馬蝗絆茶甌記」によるものです。東涯によると、「馬蝗絆」は平安末期、武將平重盛に贈られた品といえます。生産年代を、平氏が世を席巻した十二世紀に位置づけることには異論がありますが、南宋時代に日本に伝来したのは確かでしょう。

その後、この茶碗は十五世紀末まで大切に伝えられたことになります。そのうえ、割れて鏝を打たれた姿は人々の一層深い愛重の対象となりました。角倉家を経て、室町三井家の所蔵となり、昭和四十五年(一九七〇)に当館に寄贈されました。

古人の、中国に対する深い憧憬の証でもある「馬蝗絆」を、いま一度ゆっくり鑑賞下さい。



『観古美術会写真帖』 明治13～15年(1880～82)



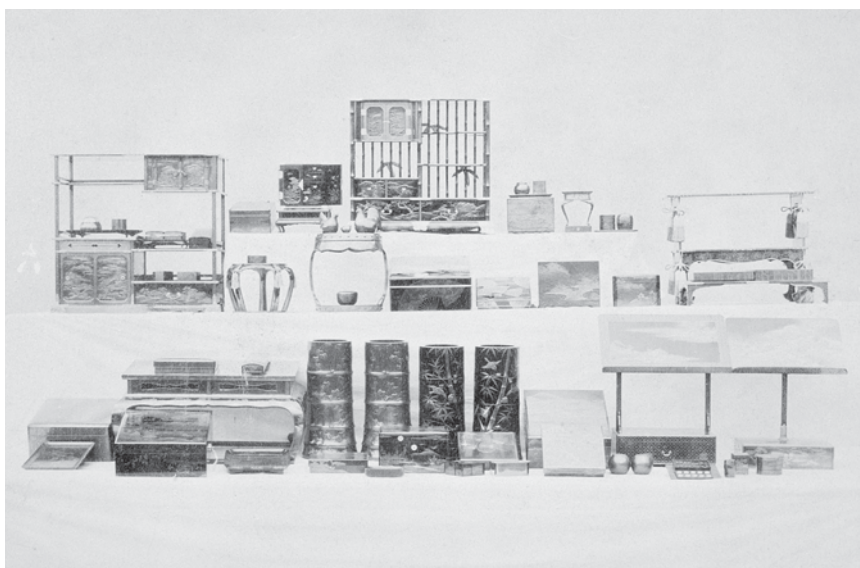
『観古美術会写真帖』より(神奈川・称名寺出品)



『観古美術会写真帖』より(河鍋晩斎出品ほか)



『澳国維府博覧会出品撮影』 明治5～6年(1872～73)



『澳国維府博覧会出品撮影』より

注目の 特集

歴史を伝える

特集陳列「古写真

—古美術の記録—

7月8日(火)～8月3日(日)

本館16室 歴史資料

明治初期、文部省博物館の時代より国内の古美術品の収集と保存はウィーン万国博覧会(明治六年「一八七四」開催)への出品と関連していたように、明治期の国内外で多数開催された博覧会や展覧会は、文化財の調査と博物館への集積の呼び水でした。

ここに写真という記録手段がどのようにかわるかとすると、すでに江戸城の撮影(明治四年)や壬申検査(明治五年)といった文化財調査に写真を導入した明治政府の担当者は、記録媒体としての写真の有用性を理解していました。そこでからは博覧会や展覧会に出品された古美術品の撮影を積極的に行ない、情報を伝え、集積していったのです。この中には現在では失われた美術品も相当数あることでしょう。また当時の人たちの美術品の写真撮影と文化財の保護は展覧会の開催を通じて密接なかわりがありました。

今回の特集陳列では、明治前期にウィーンやパリで開催された万国博覧会、そして国内に目を転じ、観古美術会に出品された作品の写真、さらに美術写真家の先駆けの一人といえる工藤利三郎の撮影した写真をご紹介します。

観古美術会とは、内務省博物館により開催された美術展です。その性格は、博覧会事業とそれに絡む欧米でのジャポニズムの購入力をあてこんだ、輸出を前提とした古美術保護および殖産興業政策の一環でした。その中心にいた大蔵卿佐野常民は、内外博覧会事業の大立者でした。つまり万国博覧会と観古美術会は十九世紀末の日本とヨーロッパの美術産業事情を映し出す鏡ともいえましょう。

一方で初めから文化財を美術品として撮り続けた写真師も登場します。今回ご紹介します社寺建築写真帖は、写真師・工藤利三郎が撮りためた写真のなかから選択されたものです。国家の要請によって撮られた写真との対比をご覧ください。 (富坂賢)

唐物趣味の隆盛

特集陳列「室町時代の漆芸」

4月1日(火)～6月29日(日)

室町時代には、幕府主導の下に対明貿易が組織的に行なわれるようになり、中国など海外の文物の流入が盛んになりました。当時中国や朝鮮等からもたらされた美術工芸品は「唐物」と呼ばれて尊重され、將軍家を始め有力武家の間では、生活空間をおびただしい量の唐物で飾ることが流行します。このような唐物重視の価値観は、各方面にさまざまな影響を及ぼしました。漆芸の分野でも、中国の堆朱や堆朱などの影響を受けて鎌倉彫が生まれ、鎗金を写して沈金が発達するなど、中国の漆器をまねることから新たな技法が発展したのです。これらは当初模倣から発した技法ですが、年代が降るにつれて技術・文様ともに和様化が進み、独特の素朴な趣を呈する作例が多く見られます。

(竹内奈美子)

花唐草彫木漆塗大香合 室町時代・16世紀
広田松繁氏寄贈
素地に文様を彫り込んでその上から漆を塗る、鎌倉彫の技法による作品



茶人が愛した朝鮮陶磁

特集陳列「高麗茶碗」

4月8日(火)～7月27日(日)

高麗茶碗とはもともと朝鮮の地方窯で量産された碗が日本の茶人の目にとまって茶碗として取り上げられたもので、侘茶が大成される天正年間(一五七三～九二)よりさかんに用いられました。やがて好みの茶碗を注文するようになります。高麗茶碗はもっぱら日本において賞玩された朝鮮陶磁なのです。

一方で、高麗茶碗を朝鮮時代の陶磁史や国際交流史の上に位置づける実証的な研究は、この二十年間に大きく進展しました。

東京国立博物館所蔵の高麗茶碗は、松永安左衛門氏、広田松繁氏の寄贈品を中心に優品が多く、しかも井戸、魚屋、彫三島など多くの品種にわたっていることが大きな特色です。この機会に高麗茶碗の魅力をお楽しみください。

(今井敦)



熊川茶碗 銘田子月 朝鮮時代・16～17世紀
熊川(こまがわ)とは金山近くの港町の名。
この種の茶碗が請来された事情と関係があるのかもしれない

朝鮮王朝時代の服飾品と装身具

特集陳列「朝鮮染織・装身具」

I 朝鮮王朝時代の女性の生活と美 5月20日(火)～7月6日(日)
II 朝鮮王朝時代の文人の生活 7月8日(火)～8月24日(日)

朝鮮王朝時代(一三九二～一九一〇)における男性と女性の服飾や生活にまつわる道具類を、二回に分けて展示いたします。この時代には男性・女性の服飾とも、厳格な身分制度により形や色彩が厳しく定められていました。Iでは上流階級の女性が身につけた上衣(チョゴリ)や唐衣(タンウイ)などの衣服をはじめ、愛らしい刺繍の巾着(チュモニ)、華角尺、飯床器(パンサンギ)など生活に密着した品々を陳列いたします。

IIでは文人の生活をテーマに、黒笠(フニブ)や胸背(ヒユンベ)という階級章を付けた団領(ダルリョン)などの服飾品、煙管(タバコ)や煙草入といった身のまわり品なども展示します。また、子供用の可愛らしい縞模様セクトン・チョゴリや足袋(ボソン)がひとときわ目を引きます。

(澤田むつ代)

セクトン・チョゴリ
朝鮮時代・19～20世紀
お正月や1歳の誕生日
(トル)に健やかな成長を願って着せました



気になる
この部屋・
この作品

本館2室 国宝室

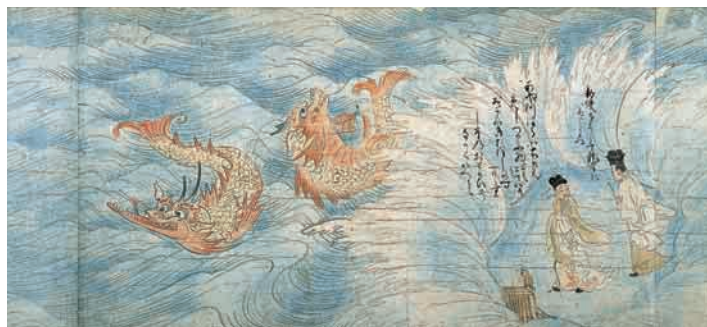
新羅時代の高僧の物語

国宝 華嚴宗祖師絵伝

6月3日(火)～7月6日(日)

これは新羅時代の高僧元曉(げんぎょう、六一七～六八五)の行いを描いた絵巻で、元来、別に制作されたと見られる、新羅の高僧義湘(ぎえい、六二五～七〇二)を描いた絵巻と一組になって伝わっています。

制作には華嚴教学の復興に活躍した高山寺の明恵が関わっていると考えられており、筆者については、当時の高山寺の絵画制作を行っていた恵日坊成忍や詫間俊賢の名などが挙げられていますが特定はされていません。



●華嚴宗祖師絵伝 鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺蔵
画中詞など、臨場感ある面作りの工夫がなされている。

本館9室 能と歌舞伎

親子の愛情が深い鳥、善知鳥を殺めた獵師

唐織 茶地格子菊折

枝模様

6月17日(火)～8月3日(日)

唐織は室町時代後期より日本で織られ、江戸時代は元禄期頃から、現在のような金糸をふんだんに織り込んだ華麗な姿となりました。能「善知鳥」では、鳥を殺した罪で地獄に落ちた獵師が主人公で、その妻が唐織を着流しにして登場します。中年女性の面を着け、唐織も紅色をおさえた中年女性用のデザインとなっていますが、格子模様を金糸で織り出しているから、格好い感じがします。地獄で苦しむ夫を見てしまった妻の悲哀に満ちた姿にも優雅さをそえる幽玄の思想が、唐織のデザインに反映されているのです。



唐織 茶地格子菊折枝模様
(ちゃじこうしきぐりえだもよう) 江戸時代・18世紀
華やかな中にも紅無(いろなし)の秋草模様が哀愁を誘う 特集陳列「能・善知鳥」の面・装束」で展示中

本館10室 浮世絵と衣装

怖いけれども可愛いお菊

百物語・さらやしき

葛飾北斎筆

7月1日(火)～7月27日(日)

江戸時代の末期、庶民の間に怪奇趣味が広まり、怪談話が流行します。「百物語」は、この流行をとらえて出版されたシリーズで、百にも及ぶ大部の揃いを企画したのですが、現在

確認されているのは、五図のみです。「さらやしき」は、主人の大事にしている皿を割った奉公人のお菊が古井戸に投げ込まれる怪談話で、浄瑠璃「播州皿屋敷」で一般に広まりました。惨殺されたお菊の霊が、一枚、二枚と皿を数える声が夜毎古井戸から聞こえてきたといえます。皿を重ねた蛇体は怨念の形象化ですが、その表情はユーモアを感じさせます。(田沢裕賀)



百物語・さらやしき 葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀

本館12室 彫刻と金工

鎌倉幕府の御家人発願の像か
重文 大日如来坐像

7月10日(木)～9月21日(日)

足利市所在の光得寺に伝わる厨子入りの大日如来像です。まるくふくよかな頬や顎、堂々とした体つきは平安時代末から鎌倉時代初期に活躍した運慶の作風に近似します。また、X線写真から知られる像内納入品も運慶作品と共通するものがあります。同市の鑑阿寺には鎌倉幕府の御家人であった足利義兼が発願した「金剛界大日并三十七尊形像」があったと縁起に伝えられ、それに該当する



◎大日如来坐像 鎌倉時代・12世紀 栃木・光得寺蔵

可能性があります。義兼は源頼朝と関係が深く、幕府関係の造像を多く手がけた運慶が担当しても不思議ではありません。

(丸山士郎)

塩野コレクション



深鉢形土器 東京都あきる野市菅生出土 縄文時代中期・前3000～前2000年
信州の曾利式土器の影響を受けて作られた大型の土器。完形で残っているのは珍しい



土偶 東京都八王子市橋原遺跡出土 縄文時代中期・前3000～前2000年
頭は三角形を呈し、目・口・鼻孔を刺突で簡単に表現する板状土偶。胸のふくらみがあるので女性とわかる

塩野コレクションは、昭和五十八年（一九八三）に、塩野半十郎氏から寄贈された、縄文土器を主体とするコレクションです。

塩野半十郎氏は明治三十一年（一八九八）、東京西多摩の秋川市（現あきる野市）草花の農家の長男として生まれました。氏は高等小学校卒業後、農業に従事しましたが、耕作中に出土する土器片の文様に興味をもったのがその後の収集の始まりでした。

氏が初めて発掘調査を行なったのは、昭和四年（一九二九）の八王子市橋原遺跡で、その後約十年にわたって掘り続け、出土した多量の土器・石器はコレクションの主体をなすものになっています。

その間、昭和七年（一九三二）に、氏は、当時東京帝室博物館鑑査官補で東京府の嘱託も兼ねていた後藤守一氏と出会い、考古学について教えを受けながら親交を深めていきました。そして多摩地域の多くの遺跡の発掘調査に携わってこられました。

また、氏は、単に遺跡の発掘や遺物の収集に終始するだけではなく、縄文時代の人々の生活の復原にも興味を持ちました。竪穴住居を復原してそこで生活してみたり、カ

ラムシから衣服を作ったり、粘土を採取して土器を焼いたりなど、さまざまな実験を行なって、縄文人の生活の実態に迫ろうとしてこられました。

こうして氏が農業を営むかたわら、長年にわたって地元のある野市や、周辺の八王子市、青梅市、国分寺市等の多摩地域一帯における縄文時代遺跡の発掘を中心として、七十年余にわたって収集されたものが塩野コレクションです。

これらの収集品は、戦後、武蔵野博物館や都立武蔵野郷土館に展示されたこともありましたが、その後は氏の敷地内に設けられた施設に収蔵・展示されてきました。しかし、保管に万全を期し、広く一般の人々の観覧に供したいという趣旨のもとに、氏が親交を重ねてこられた後藤守一氏と関わりの深い当館に寄贈されることになりました。

本コレクションは七百七十件、総数二万点をほかに越える膨大なもので、その内訳は、旧石器時代遺物一件、縄文時代遺物七百十件、古墳時代及びそれ以降の遺物五十六件、国外新石器時代・青銅器時代遺物三件となつています。種類別にみると、旧石器時代の石器九点、縄文時代の土器二百四十一件、石器二百五十件（約二千点）、土器片一括百九十件（約二万点）、古墳時代以降の土師器二十三

点、土師器片一括十七件、須恵器五点、古墳副葬の直刀・刀子・鎌等鉄器五件（十一件）となっています。詳細は「寄贈 塩野コレクション目録」（東京国立博物館編集 発行、一九八四年）をご覧ください。

本コレクションの特色として、出土地の明確なものが多く、考古資料として学術的価値が高いこと、多摩地域出土の縄文時代の土器・石器が大部分をしめており、中期縄文土器がその主体をなしていること、多摩地域の中期縄文文化の様相を知ることのできる貴重な学術資料であることなどがあげられます。

氏の寄贈を受けて、特別展観「塩野コレクション」が昭和五十九年（一九八四）七月十七日から九月十六日まで開催されました。氏は開会式に病をおして車椅子で出席され、テープカットをなされました。その展覧会が終了したのを見届けて安心されたのか、多摩の縄文研究に大きな足跡を残した「土の巨人」は、九月二十七日にご逝去されました。享年八十六歳でした。

氏のコレクションは、当館の縄文時代のコレクションの充実に貢献し、縄文時代の展示に欠くことの出来ないものになっています。

（望月幹夫）



深鉢形土器 東京都あきる野市千代ノ原出土 縄文時代中期・前3000～前2000年
縄文を使わずに隆帯で文様を構成している。円文・渦文・直線文の組合せが不思議な魅力をかもしている



土製耳飾 東京都あきる野市中高瀬出土 縄文時代晩期・前1000～前400年
同心円文、連弧文、刺突文を組み合わせた文様を施している。赤色塗彩が鮮やかに残っている

平成館
企画展示室

親と子のギャラリー
「博物館の水族館」

6月25日(水)～8月31日(日)

夏休み恒例、家族で楽しめる「親と子のギャラリー」。今年は当館所蔵品の中から、魚や貝、蟹や亀など海や川で暮らす生き物をモチーフに用いた作品を集めてみました。

「博物館の水族館」では、コイ、ナマズ、タイ、ヒラメなどさまざまな魚や水生動物に出会うことができます。

会場でひととき目を引く大きな魚、それは海のギャングとも呼ばれるシャチです。実はこれは、江戸城の屋根に用いられた銅製の鯨ほこで、高さが136cmもあります。反対に小さいものには浅蜷や蜆の形をした江戸時代の根付があります。古いものは、今から3000～4000年までに土でつくられた貝や亀などです。縄文人たちは、こうした身近な生き物のかたちをした土製品を何のためにつくったのでしょうか。

展示されている魚たちは、皿や鉢などの食器をはじめ文房具、装



◎青花魚藻文壺 景德鎮窯
元時代・14世紀 田中芳男氏寄贈
ゆらゆら揺れる藻の中を泳ぐ魚。
水を思わせる青が涼しげ

身具、刀の鐔など様々な用途の品々に、モチーフとして表されています。一方で江戸時代には本物と間違えてしまいそうな亀や蟹などの精巧な置物が盛んにつくられました。こうした置物は欧米で好まれ、その後明治時代にかけて盛んに輸出されました。

中国や朝鮮半島、タイやベトナムといった外国生まれの魚たちもいます。

展示はケースを水槽に見立て、まるで水族館にいるかのように楽しみながら一つ一つの作品を鑑賞できるよう工夫しましたので、ご家族連れでぜひご覧ください。(加島勝)

◎巻貝形土製品 新潟県村上市上山出土
縄文時代後期・前2000～前1000年



夜の博物館でさかなクンと会おう

親と子のギャラリー「博物館の水族館」の展示作品を、さかなクンが解説します。どんな魚を表現した作品なのか、人間の魚に対するどんな思いがこめられているのか。夜の博物館を訪れてみませんか。

出演：さかなクン × 加島勝(当館博物館教育課長)

日時：2008年8月12日(火) 18:30～20:00(閉館後)

場所：東京国立博物館平成館企画展示室

参加費：無料(保護者は入館料が必要)

定員：小中学生を含む20組(小中学生1名につき、保護者2名まで)

申込方法：往復はがきまたは電子メールで、参加希望者全員のお名前(ふりがな)、年齢または学年、住所、電話番号を明記し、下記へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館 教育講座室「さかなクン」係

電子メール：edu@tnm.jp

申込締切：7月25日(金) 必着

応募者多数の場合、抽選の上さかなクンからの招待状をお送りします。

特集陳列「博物館の水族館」関連企画

ファミリーワークショップ
「動くおもちゃ 自在エビを作ってみよう」

親と子のギャラリー「博物館の水族館」で展示される、自在エビ(体の各部を動かすことのできるエビ)を見て、自在エビを作ってみよう。昨年大好評だったプログラムです。家族で力をあわせて、作ってください。

日時：2008年7月26日(土)・27日(日) 各日13:00～17:00

場所：東京国立博物館 本館20室

対象：小学生およびそのご家族 定員：各回10組(先着順)

参加費：無料(ただし、当日の入館料は必要です)

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで ①参加者全員の氏名(ふりがな)とお子さんの学年 ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番号) ④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「自在エビワークショップ」係

FAX：03-3822-3010 電子メール：edu@tnm.jp(件名に「自在エビ申し込み」とご記入ください)

申込締切：7月20日(日) 必着

アルミ板で作る自在エビ。
表情は作る人によってさまざまです



申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで
①氏名(ふりがな)と学校名・学年 ②郵便番号・住所
③電話番号(FAX番号) ④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。1回の申込で2名まで申込可

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 教育普及室「浮世絵の皿」係
FAX：03-3822-3010

電子メール：edu@tnm.jp(件名に「浮世絵の皿」とご記入ください)

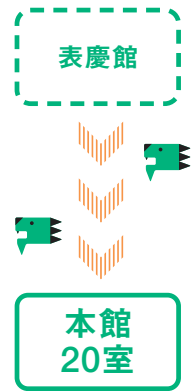
申込締切：7月13日(日) 必着

なお、表慶館では今後、「フランスが夢見た日本——陶器に写した北斎、広重」(7月1日(火)～8月3日(日))、「スリランカ——輝く島の美に出会う」(9月17日(水)～11月30日(日))、「未来をひらく福澤諭吉展」(仮称 2009年1月10日(土)～3月8日(日))などの特別展が開催される予定です。どうぞお楽しみに。

パネルや映像による館内のガイダンスコーナー、仏像の制作工程模型のコーナーを設けるほか、日本の伝統的な文様をテーマにした簡単な体験型プログラムなども実施します。今日の見どころをチェックしたり、体験コーナーで子どもたちと遊んだり、あるいは椅子に腰掛けてほっと一息ついたり。利用のしかたはさまざまです。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

2007年4月から、約1年にわたって「みどりのライオン」の愛称で親しまれてきた教育普及スペースが、6月半ばに表慶館から本館入ってすぐの20室に引越します。

「みどりのライオン」の引越と20室での企画



「こどもたちのアートスタジオ」根付作り

当館生涯学習ボランティアによるワークショップを開催いたします。本館10室にある根付を見学した後に、粘土を加工してオリジナル根付を作ります。

日時: 7月21日(月・祝) 13:30～15:30 会場: 平成館小講堂

対象: 小学校3年生から高校生 ※保護者の方の見学も可能です

定員: 10名程度

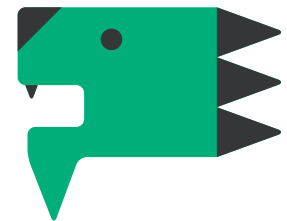
事前申込制: 参加費無料(但し保護者の方の入館料は必要)

申込方法: 往復はがきの「往信用裏面」に、希望コースと日程、郵便番号・住所・参加される方のお名前(ふりがな付き)・学年・電話番号・保護者が一緒の場合はその人数「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記し下記までお申込下さい。

申込締切: 7月7日(月) 必着 ※締め切り後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込先: 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ボランティア室



みどりのライオン
みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

表慶館

特別展「フランスが夢見た日本——陶器に写した北斎、広重」関連企画 中学生のためのワークショップ 「浮世絵デザインのお皿をつくろう!」

「フランスが夢見た日本——陶器に写した北斎、広重」展に関連して、ワークショップを行います。フランス・オルセー美術館から来日する絵皿は、日本の浮世絵の図柄を見事にデザインしたものです。そこで、本館10室で展示されている浮世絵作品をヒントに、丸いお皿にオリジナルの絵を描いてみましょう。

日時: 2008年7月20日(日)、21日(月・祝)
10:00～12:30

場所: 東京国立博物館表慶館

対象: 中学生 定員: 20名(先着順) 参加費: 無料

月例講演会

会場: 平成館大講堂 定員: 380名(当日先着順)

聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

「埴輪猿を出土した常陸大日塚古墳の特色とその年代」

大塚初重氏(明治大学名誉教授、考古学)

特集陳列「平成19年度新収品」(6月17日～7月13日)の展示作品に関連して、古墳研究の大家にお話をうかがいます。

日時: 6月21日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

「漆芸からみえる沖縄のすがた」

宮里正子氏(那覇市歴史博物館主幹、漆芸史)

特集陳列「琉球の工芸」(7月1日～9月28日)に関連して、東アジアの中での沖縄の重要性をさぐります。

日時: 7月26日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

ワヤン公演「クレスノ使者に立つ」

特集陳列「ワヤン—インドネシアの影絵人形—」(7月29日～10月19日)に関連して、日本ワヤン協会によるワヤン公演を行います。

演目: マハーバーラタより「クレスノ使者に立つ」

出演: 日本ワヤン協会(主宰・松本亮氏)

日時: 2008年8月1日(金) 18:30～19:50

(開始前の18:10より、歓迎のガムラン演奏も行います)

会場: 平成館ラウンジ 当日自由参加・鑑賞無料(ただし当日の入館料は必要)

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

～東京国立博物館 × 21世紀「世界の100人のピアニスト」～
エフゲニ・ザラフィアンツ ピアノコンサート
#21世紀「世界の100人のピアニスト」(音楽の友)の1人にも選ばれた
孤高のピアニスト エフゲニ・ザラフィアンツによる魂の音楽#
日時 6月22日(日) 15:00 開演(開場 14:30)
会場 東京国立博物館 平成館 ラウンジ
出演 エフゲニ・ザラフィアンツ(ピアノ)
曲目 メンデルスゾーン:Woo 10 舟歌、モーツァルト:ソナタ1番 K.279
バッハ:ブゾーニ版 シャコンヌ ほか
料金 一般 5,000円(全席自由)
※友の会・キャンパスメンバーズ割引 4,000円
※コンサート料金で、当日の平常展をご観覧いただけます。
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

チケットのお求め方法

- 当館正門観覧券売場でのチケット販売
受付 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)
- 電話予約販売
申込先:東京国立博物館イベント担当 TEL:03-3821-9270
受付時間:月曜日～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)
引換時間:コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡
しします。
お問い合わせ:東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL:03-3821-9270
月曜日～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)

～親子でみやびにまったりと～親子で楽しむ長唄コンサート
音楽の花束スペシャルwith 杵屋勝四郎
#長唄唄方の杵屋勝四郎(きねやかつしろう)さんをゲストに迎え、本格
的な邦楽コンサートを、子どもにも大人にも親しみやすいプログラムで
お送りいたします! #

日時 7月6日(日) ①11:00開演(10:30開場) ②14:00開演(13:30開場)
※①、②ともに公演内容は同じです。
会場 平成館大講堂
出演 杵屋勝四郎ほか
料金 一般 2,000円 小中学生・園児 1,000円
幼児 無料(ひざに乗せてご鑑賞ください)
※コンサート料金で、当日の平常展をご観覧いただけます。
主催 イエモトオフィス
企画制作 後藤京子
共催 東京国立博物館、学校法人駒場幼稚園
お問い合わせ/チケットお申込 TEL:090-5571-3379(担当:後藤)
E-mail: Ongakuno.hanataba@gmail.com

～さわやかな歌声の贈り物～
ハーバード大学・クロコディロス 無料コンサート
#毎年好評のハーバード大学男声アカペラコーラスグループ「クロコディ
ロス」。今年も東博に登場! #
日時 6月15日(日) ①13:00～ ②15:00～(各回20分程度)
会場 本館エントランスホール
出演 クロコディロス
曲目 Danny Boy、浜辺の歌ほか(予定)
料金 無料(ただし入館料は必要)※事前予約不要(当日会場にお集まりください)
主催 東京国立博物館 財団法人東芝国際交流財団
お問い合わせ 東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL:03-3821-9270
月曜日～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)

～クラリネットの響きが彩る午後のひと時～
東京国立博物館 ファミリーコンサート
#東京クラリネット・クワイアーがクラリネットだけの珍しい編成でお届
ける名曲の数々をお楽しみください#
日時 7月20日(日) ①13:00～ ②15:00～
会場 平成館大講堂
出演 演奏 東京クラリネット・クワイアー 指揮 稲垣征夫
曲目 シュトラウス II: 皇帝円舞曲ほか
料金 無料(ただし当日の入館料は必要)※事前予約不要 先着380名
主催 東京国立博物館 東京クラリネット・クワイアー
お問い合わせ 東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL:03-3821-9270
月曜日～金曜日の9:30～17:00(土日・祝休日は除く)
※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車でのご来館はご遠慮ください。

チケットプレゼントのお知らせ
◆本誌4、5ページで紹介した「対決一巨匠たちの日本美術」の招待券を抽選
で10組20名様にプレゼントいたします。締切は6月25日(水)必着
◆本誌6ページで紹介した「フランスが夢見た日本一陶器に写した北斎、広重」の
招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締切は6月25日(水)必着
※プレゼントの応募方法
はがきに、チケットを希望する展覧会名、住所、氏名(ふりがな)、男女、年
齢、職業、この号でいちばんおもしろかった企画をご記入のうえ、下記まで
お送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。
〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
広報室「ニュース6・7月号」プレゼント係

臨時休館のお知らせ 6月24日(火)は設備保守点検のため臨時休館いたします。
お盆期間中の開館のお知らせ 8月11日(月)は開館いたします。
本館一部閉室のお知らせ 6月10日(火)～12日(木)は本館20室を、7月8日(火)、
9日(水)は本館11室・12室を展示準備のため閉室いたします。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、
当館の活動を幅広くご支援いただいております。
賛助会員よりいただいた会費は、文化財
の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備
等の充実にあてております。どうか賛助会の
趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださ
いますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)
有効。賛助会員には、特別会員と維持会員と
の2種類があります。

年会費
特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付
- *賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
- *お問い合わせ
東京国立博物館総務部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2008年4月23日現在

特別会員	株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様	神通 豊 様
日本電設工業株式会社 様	長谷川 英樹 様	永久 幸範 様
東京電力株式会社 様	池田 孝一 様	五十嵐 良和 様
株式会社コア 様	木村 剛 様	石川 公子 様
株式会社 精養軒 様	観世 あすか 様	池田 慶子 様
毎日新聞社 様	コクヨファニチャー株式会社 様	株式会社 東京書芸館 様
大日本印刷株式会社 様	星 望 尚 様	青山 千代 様
株式会社 大林組 東京本社 様	株式会社 鴻池組 東京本店 様	藤崎 英喜 様
朝日新聞社 様	久保 順子 様	永田 実香 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様	渡辺 章 様	西岡 康宏 様
株式会社 ミロク情報サービス 様	稲垣 哲行 様	小川 徳男 様
TBS 様	帖佐 誠 様	友景 紀子 様
読売新聞東京本社 様	株式会社 古美術数本 様	東野 治之 様
三菱商事株式会社 様	飯岡 雄一 様	辻 泰二 様
凸版印刷株式会社 様	峯村 協成 様	竹下 佳宏 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様	牧 美也子 様	松原 聡 様
財団法人 東芝国際交流財団 様	高瀬 正樹 様	シチズンホールディングス株式会社 様
	坂井 俊彦 様	野澤 智子 様
	寺浦 信之 様	有賀 浩治 様
	高木 美華子 様	吉田 幸弘 様
	晩飯島工業株式会社 様	野崎 弘 様
	山岡 ユウ子 様	坂田 浩一 様
	古屋 光夫 様	池谷 正夫 様
	根田 穂美子 様	池谷 徳雄 様
	松本 澄子 様	脇 素一郎 様
	鷲塚 泰光 様	秦 芳彦 様
	是常 博 様	宇田 左近 様
	上野 孝一 様	杉原 健 様
	北山 喜立 様	木谷 駿二郎 様
	謙慎書道会 様	木村 茂直 様
	社団法人 全国学校栄養士協議会 様	インフォコム株式会社 様
	山田 泰子 様	渡久地 ツル子 様
	近代書道研究所 様	汐崎 浩正 様
	田村 久雄 様	関 哲夫 様
	日本畜産興業株式会社 様	堤 勝代 様
	高橋 徹 様	山下 由紀子 様
	栄田 陸子 様	平井 千恵子 様
	絹村 安代 様	高谷 光宏 様
	高橋 良守 様	青山 道夫 様
	岡田 博子 様	田中 千秋 様
	臼井 生三 様	学校法人 大勝院学園 様
	津久井 秀郎 様	小西 岬也 様
	藤倉 光夫 様	

(ほか38名2社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで

〈郵便振替でのお申し込み先〉

友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
口座番号 00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
口座番号 00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は7月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30~17:00、2008年4月から11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2008年4月から11月の土・日・祝・休日は18:00まで
(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。6月24日(火)は臨時休館。8月11日(月)は開館。

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

*()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

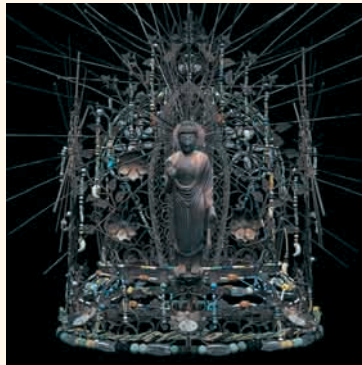
*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*講演会、ワークショップ、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みに際してご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

TOPICS



◆今年は夜桜もお楽しみいただきました。恒例の春の庭園開放。本年は3月15日(土)~4月20日(日)でしたが、とくに3月20日(木・祝)~4月6日(日)までの16日間、「博物館でお花見を」と題してさまざまな関連事業が行なわれました。とりわけ午後5時からは庭園がいっぱい



東大寺法華堂 国宝 不空罽索観音立像 宝冠(映像)

◆ミュージアムシアター

TNM&TOPPANミュージアムシアターでは、5月25日(日)までVR作品「マヤ文明 コパン遺跡」を上演中。翌週5月30日(金)からは、VR作品「東

大寺法華堂 国宝 不空罽索観音立像宝冠」を公開いたします。東大寺法華堂に安置される国宝の観音立像。その頭に頂く冠は、水晶に翡翠、真珠、琥珀などの宝玉二万数千を数える豪華なものです。お堂でも近寄って見ることができないものですが、バーチャルリアリティ技術により、間近で鑑賞しているかのような体験を味わうことができます。

今後のスケジュール

5月25日(日)まで「マヤ文明 コパン遺跡」
5月30日(金)~7月27日(日)「東大寺法華堂 国宝 不空罽索観音立像宝冠」
8月1日(金)~9月28日(日)「江戸城」
10月3日(金)~11月24日(月・休)「国宝 聖徳太子絵伝」

※5月30日より受付場所が本館1階に変更になります。

※上演期間および上演作品は予告なく変更する場合があります。

※上映時間等は本誌16ページ、当館ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>、ハローダイヤル03-5777-8600などでご案内しています。

◆MUSEUM 613号

(平成20年4月15日発行)の掲載論文



①「金碧画技法のルーツを追って—キリスト教絵画からの影響—」佐々木丞平(京都国立博物館館長)・佐々木正子(京都嵯峨芸術大学教授)

②「帰郷のイメージ—韓国と日本の『帰去来図』をめぐって—」宣承憲(韓国国立中央博物館アジア部学芸研究士)

③「大口周魚の書道史観と手鑑『月台』」高橋利郎(成田山書道美術館)

④「史料紹介—東京国立博物館所蔵家康書状(はりま殿宛)について—」自署「大ふ」の表記をめぐって」高梨真行(当館書跡・歴史室研究員)

※購読のお問い合わせは中央公論事業出版(電話03-3535-1321へ)。

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特集陳列「杉本哲郎 アジャント・シーギリヤ壁画模写—70年目の衝撃—」6月25日(水)~7月27日(日)
特集陳列「坂本龍馬」7月23日(水)~8月31日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「国宝 法隆寺金堂展」6月14日(土)~7月21日(月・祝)

〈九州国立博物館〉

特別展「島津の国宝と篤姫の時代—東京大学史料編纂所20万点の世界—」7月12日(土)~8月24日(日)

2008年
6月

東京国立博物館6月・7月の展示・催し物

2008年
7月

1 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
2 MON	休館日
3 TUE	列品解説「縄文人の祈り—足形土製品—」14:00 平成館考古展示室 薬師寺展ガイド 13:00, 15:00 平成館大講堂 *1
4 WED	
5 THU	薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂 *1 14:00
6 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
7 SAT	時間延長(18:00まで) 薬師寺展ガイド 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂 *1 13:30 14:00 15:00
8 SUN	国宝 薬師寺展 時間延長(18:00まで)
9 MON	休館日
10 TUE	列品解説「地誌・絵図にみる東北」14:00 本館16室
11 WED	14:00 14:30 14:00
12 THU	14:00 14:00 14:30
13 FRI	14:30 15:00
14 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
15 SUN	時間延長(18:00まで) クロコティロス 無料コンサート①13:00 ②15:00 本館エントランス *2 12:30, 14:00 14:00 14:30
16 MON	休館日
17 TUE	列品解説「インドの神像パイラヴァ」14:00 東洋館第1室
18 WED	
19 THU	14:00
20 FRI	15:00
21 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「埴輪猿を出土した常陸大日塚の特色とその年代」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 15:00
22 SUN	時間延長(18:00まで) エフゲニ・ザラフィアンツ ピアノコンサート 15:00 平成館ラウンジ *3 14:00
23 MON	休館日
24 TUE	臨時休館日
25 WED	14:00 14:30
26 THU	14:00 14:30
27 FRI	14:30 15:00
28 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
29 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
30 MON	休館日

- ＝ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによる考古展示室ガイド、場所:平成館考古展示室入口
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所:法隆寺宝物館1階エントランス
＝ボランティアによる応挙館茶会、集合場所:本館1階エントランス
(一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布)
＝ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館1階エントランス
(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)
＝ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所:本館1階エントランス

1 TUE	フランスが夢見た日本—陶器に写した北斎、広重 列品解説「ロダン 作・エヴァの見かた、考えかた」14:00 平成館1階彫刻ギャラリー
2 WED	
3 THU	14:00
4 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
5 SAT	時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 15:00
6 SUN	時間延長(18:00まで) 親子で楽しむ長唄コンサート ①11:00 ②14:00 平成館大講堂 *3 14:30
7 MON	休館日
8 TUE	対決—巨匠たちの日本美術 列品解説「博物館の水族館」14:00 平成館企画展示室
9 WED	14:00 14:30 14:00
10 THU	14:00 14:00 14:30
11 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
12 SAT	時間延長(18:00まで) 記念シンポジウム「フランスのジャポニスム— 陶磁器を中心に—」*4 14:00 14:30
13 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00
14 MON	休館日
15 TUE	
16 WED	
17 THU	14:00
18 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
19 SAT	時間延長(18:00まで) 記念座談会「放談 巨匠対決(仮)」*6 13:30 14:00 15:00
20 SUN	時間延長(18:00まで) 東京国立博物館ファミリーコンサート ①13:00 ②15:00 平成館大講堂 *2 中学生のためのワークショップ「浮世絵デザインのお皿をつくろう!」 10:00 表慶館 *5 12:30, 14:00 14:30
21 MON	時間延長(18:00まで) 中学生のためのワークショップ「浮世絵デザ インのお皿をつくろう!」10:00 表慶館 *5 13:30
22 TUE	休館日
23 WED	14:00 14:30
24 THU	14:00 14:30
25 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
26 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「漆芸からみえる沖縄のすがた」13:30 平成館大講堂 ファミリーワークショップ「動くおもちゃ 自在エビを作ってみよう」 13:00 本館20室 *5 14:00
27 SUN	時間延長(18:00まで) ファミリーワークショップ「動くおもちゃ 自在 エビを作ってみよう」13:00 本館20室 *5 14:00 14:00
28 MON	休館日
29 TUE	列品解説「法隆寺献納宝物の褥」14:00 法隆寺宝物館第6室
30 WED	
31 THU	14:00

8/3まで 8/17まで

- ＝「東大寺法華堂 国宝 不空羼索観音立像 宝冠」上映10:00 11:00 12:00 14:00
15:00 16:00 各回30名、集合場所:本館1階エントランス
＝ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ、根付づくりコース
(事前申込制、本誌13ページまたは当館ホームページをご覧ください。抽選10名)

- *1「国宝 薬師寺展」関連事業です
*2 無料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください
*3 有料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください
*4「フランスが夢見た日本」展関連事業です 事前申込制 詳細は本誌6ページをご覧ください
*5 事前申込制 詳細は本誌12～13ページをご覧ください
*6「対決」展関連事業です 事前申込制 詳細は本誌4ページをご覧ください

*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。